

参考・引用文献

- 安藤英男 1988『関ヶ原合戦写真集』新人物往来社
- 小和田哲男編 1984『関ヶ原合戦のすべて』新人物往来社
- 笠谷和比古 1994『関ヶ原合戦』講談社選書メチエ
- 笠谷和比古 2000『関ヶ原合戦四百年の謎』新人物往来社
- 神谷道一 1892『関ヶ原合戦図志』
- 鬼頭勝之 2007「宗春研究の現在－山王社・飯綱権現について」『郷土文化』第 61 巻第 3 号 名古屋郷土文化会
- 岐阜県教育委員会編 2002『岐阜県中世城館跡総合調査報告書第 1 集』岐阜県教育委員会
- 岐阜県歴史資料保存協会編 2000『関ヶ原合戦と美濃・飛騨』
- 岐阜市歴史博物館編 1990『開館 5 周年記念特別展 関ヶ原の合戦』岐阜市歴史博物館
- 参謀本部編 1926『日本戦史・関原役』
- 関ヶ原合戦 400 年祭推進室編 2001『関ヶ原合戦 400 年祭記録集』関ヶ原合戦 400 年祭推進協議会
- 関ヶ原町・関ヶ原町教育委員会 1976『史跡関ヶ原古戦場保存管理計画報告書』
- 関ヶ原町教育委員会 1982『関ヶ原古戦場発掘調査報告』
- 関ヶ原町 1990『関ヶ原町史 通史編上巻』
- 関ヶ原町 1993『関ヶ原町史 通史編下巻』
- 関ヶ原町・関ヶ原町教育委員会 2007『史跡関ヶ原古戦場保存活用のための基本構想』
- 徳富蘇峰 1922『近世日本国民氏・家康時代上巻 関原役』民友社
- 長浜城歴史博物館 2004『北国街道と脇往還』サンライズ出版
- 二木謙一 1982『関ヶ原合戦』中公新書
- 西村幸夫 2004『都市保全計画 歴史・文化・自然を活かしたまちづくり』東京大学出版会
- 藤井治左衛門 1926『関ヶ原戦史』西濃印刷
- 藤井治左衛門 1979『関ヶ原合戦史料集』新人物往来社
- 不破郡教育会 1926『不破郡史上巻』
- 不破郡教育会 1927『不破郡史下巻』
- 丸山幸太郎 2001「文化財の保護と活用の史的考察」『岐阜女子大学紀要』第 30 号

附 属 資 料

- 1) 史跡関ヶ原古戦場保存管理計画策定委員会設置規則
- 2) 関ヶ原町まちづくり 200 人委員会 史跡活用分科会提言書
- 3) 松尾山城跡略測図
- 4) 史跡指定時標柱一覧
- 5) 関ヶ原合戦関連ドラマ・映画一覧
- 6) 関ヶ原合戦関連小説・随筆等一覧
- 7) 関ヶ原合戦その他関連書籍（ムック等）一覧
- 8) 関ヶ原合戦関連新聞記事一覧
- 9) 現状変更申請一覧（平成 8 年度～平成 20 年度）

1) 史跡関ヶ原古戦場保存管理計画策定委員会設置規則

平成二十年九月九日

教委規則第八号

(設置及び目的)

第一条 史跡関ヶ原古戦場の適正な保存管理及び活用を図るため、史跡関ヶ原古戦場保存管理計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第二条 委員会は、史跡関ヶ原古戦場の保存管理計画等について必要な調査、研究及び審議をする。

(組織)

第三条 委員会は、委員八名以内をもって組織する。

2 委員は、学識経験者、地元有識者及び関ヶ原町教育委員会（以下「教育委員会」という。）が必要と認める者のうちから教育委員会が委嘱する。

3 委員の任期は一年とする。ただし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

4 委員は再任することができる。

(委員長)

第四条 委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を掌理する。

(会議)

第五条 委員会は、教育長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員長は、必要があると認めたときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聞くことができる。

(事務局)

第六条 委員会の庶務は、教育委員会社会教育課において処理する。

(その他)

第七条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成二十年十月一日から施行する。

史跡活用分科会

I. 提 言

1. 関ヶ原古戦場

観光客の中には関ヶ原に足を踏み入れ、しばらくすると、「古戦場って、どこにあるんだろう？」という疑問を持つ方が多いようである。石碑だけの史跡より、観光客は古戦場らしさを期待して来訪される。現状変更の制限のある中にも開発の活路を開くべき道はあると思われる。国指定といっても、城址や古墳の遺構などではなく、ただの決戦場跡地である。修景によって景観が損なわれるということではなく、むしろ過去の姿に戻すのに問題はないはずである。天下分け目の合戦を後世に伝えるためにも、また見学者にとっても、可視的なものが必要不可欠である。それにより見学者に対する魅力を増大させることが大切である。名前だけの「関ヶ原」から、今こそ抜け出し、最小限の投資で最大限の工夫をこらすべきだ。それには集客性と採算性を考慮しつつ、これまで以上に県文化課や文化庁の理解を得て、活用の具体化を図る。そうすることにより江戸幕府 300 年の礎が築かれた天下分け目の決戦の地をより良く紹介もできよう。

そして後世に関ヶ原合戦の意義を伝えていくことは、むしろ国の使命とも言える。関ヶ原古戦場は万人が認める全国版である。それどころか広くヨーロッパまでも知られているのである。ちなみに、1600 年に日本に来て、以後家康に仕えたイギリス人ウィリアム・アダムス（日本名三浦按針）のドキュメンタリー映画製作のため、先年ドイツの放送局が各地の鉄砲隊の招集のもとに、笹尾山麓で合戦ロケをやってのけたことは記憶に新しい。

そんなわけで、関ヶ原古戦場内にメモリー的な国の施設があって当然の歴史遺産である。ベルギーのワテルロー古戦場を手本にし、保存・活用に国の協力も願いたいものだ。いずれにしても、町としては見学者の視線に立ち、修景のうえに、さらには学習に必要な大小さまざまな施設づくりというように空間と情報の効果的な提供により、思い出を持ち帰ってもらうようにすることが大切である。

それによって、リピーター率を高め、また口コミ・PR によって、これまで以上に新規来訪者が迎えられようになるのである。こうして古戦場関ヶ原の受け入れ態勢を整え、全国の皆さんに歴史学習の場を提供することを、わが町民の誇りとしたい。

（１）開戦地

（修景について）

◆現状での課題・問題点について

- ①一面農地が広がっているのみで、歴史的風致にそぐわず、古戦場らしさが醸し出されていない。
- ②陣跡の石碑のみで、可視的な構築物もなく、景観に魅力を欠いている。
- ③史跡活用の上から、見学者を引き付け、興味関心を高めるための各種の手だては当然講じられるべきである。

◆今後の方策（施策）について

- ①開戦地の保存活用のためには、まずは公有化が急務である。
- ②主要な決戦地区域は起伏状に造成し、野芝張りにより古戦場の雰囲気醸し出す。
- ③平原内に石彫りの特定の武将像をおく。
- ④川沿いも含め周辺部に梅林、桜、花園、また池での水性植物等を育て名所とする。そして将来は有料の公園化を図る（池あり、川あり、平原あり）。

（集客施設について）

◆現状での課題・問題点について

- ①決戦地内には何一つ集客施設がなく、無味乾燥である。
- ②この指定地内には史跡活用上必要な施設がなく、来訪する学習者に不便をかけている。

◆今後の方策（施策）について

- ①映像技術を駆使した映像主体のメモリー的施設、「国営博物館分館 関ヶ原合戦記念館（仮称）」といったものの設置を国に要望する。（指定地内外）映像展示館は収容人数 50 人乃至 100 人程度の規模のものでよい。映像資料としては、三成の拳兵、本戦概要（立体映像）、戦後処理、江戸幕府成立までを捉え、内容は簡潔に構成し、日本史上最大の天下分け目の決戦と古戦場を紹介し、保存を通して後世にその合戦の意義を伝えるものとする。これは国としての使命でもある。というのは、関ヶ原の戦いは戦国時代に終止符を打ったと同時に、それまでの政争のやむを得ない解決手段としての戦いでもあった。そして、徳川 300 年の新しい時代の幕開け、さらには、やがて始まる民主主義の時代の礎を築いた意義深い戦いだったからである。したがって、当古戦場関ヶ原には、上記の国営施設を誘致するだけの価値あるいは資格は十分過ぎる程あると考えられる。仮にも、このことを全国の歴史ファンに問うならば、誰一人反対者はいないはずである。むしろ諸手を挙げて賛成することは疑いのないことである。加えて、記念館の複合ガイダンス施設として、学習コーナーを併設する。特に、児童・生徒・親が興味を持って、関ヶ原合戦を中心とした日本史の展開が理解できるような、簡潔なパネルによるクイズコーナー等のある展示施設を設ける。

- ②50 人程度の収容規模のトイレ付東屋的休憩施設を整備する。
- ③草原を活かした各種の体験学習施設を整備する。内容については今後の検討課題とする。
- ④公園化が進んだ後には、決戦地との兼ね合いを考慮して、指定地内外での軽飲食・売店施設の整備も進める。これらの営利事業に関わる採算性その他のことについては、当然本会で検討できる範ちゅうではないので、町当局に委ねたい。

（アクセスについて）

◆現状での課題・問題点について

- ①必ずしも徒歩で来訪する学習者ばかりとは限らない。大型観光バスで来訪する客にとって、開戦地や島津・小西・宇喜多各陣跡近くに寄り付けないのは致命的である。
- ②史跡遊歩道（小池・小関、南北天満山麓地内）が不明確である。
- ③史跡遊歩道のうち、藤古川ダム上は極めて危険であり、自転車による通行は不可能である。
- ④サイクリング用の道路標識がなく不便である。見学者がマップをよく見ていないせいもあると考えられるが、やむなく自転車を引いて藤古川ダムを渡ったり、大谷墓地や大谷陣跡コースを上り下りする羽目に陥って、見学者を泣かせている状態がよく見られる。何ともはや気の毒なことである。

◆今後の方策（施策）について

開戦地・決戦地ともに、その保護と総合的な開発にあたっては、まず基本構想の策定の必要性は言うに及ばない。今から 30 年前の 1975 年に専門委員会が結成され、保存管理策定事業に取り組み始めた経緯がある。今回その再燃となるが、当然ながら、例えば史跡整備委員会を設ける。

そして、この委員会は県（国）の文化財関係者、行政関係者、大学教授、地域開発設計者、学識経験者、旅行業者などで構成し、来訪者の視点に立った史跡活用策全体構想を打ち立てることの必要性を前提として、下記事項を提言する。

- ①大型バス進入道路第 1 案として、国道 365 号より梨の木川左岸または右岸沿いに進入し、開戦地駐車場に至る路線を整備する。同駐車場はさらに拡張する必要がある。
- ②また、大型バス進入道路の別案として、広域農道藤古川右岸よりダム堰堤下流に橋を架け、遊歩道沿いに東進、南天満を経て開戦地駐車場または不破関土塁北側附近に駐車場を新設し結ぶ。他にダム上流左岸から遊歩道につなぐコースも考えられる。なお、大型バス進入コースについては、ほかに考えられる案があれば、①②の限りではない。
- ③史跡遊歩道用として、藤古川右岸広域農道より、不破関要害の地左岸のダムの下手に吊り橋を架けるのも風情があるのではないか。
- ④遊歩道及びサイクリングロードを兼ねた何らかの案内標識を工夫する。

A（今後の施策に対する町長の考え方・方針）

「開戦地」

史跡の活用については、知名度に恥じない夢のある整備をしたいと考えていますが、史跡には文化財保護法という網がかぶっており、史跡地の活用には文化庁の許可が必要になります。

土地利用の面から言えば史跡指定の解除、縮小、公有化という、三つの方法論がありますが、現在の文化庁行政をみますと前二者については、行政としては、他の文化行政との兼ね合いもあって主導的立場でやることは難しいと思います。

したがって、活用と言えば三番目の公有化を目指し、その範ちゅうで何を行うのかという選択肢しかないと思います。公有化には地権者の方々のご理解とご協力が不可欠と考えます。分科会では公有化を第一として捉えられ、集客施設、アクセス等についても微々細々に至る個別政策のご提言をいただいておりますが、その提言内容を念頭におきながら文化財保存審議会のご意見を参考に「史跡活用を考える会」（仮称）を早急に立ち上げ、まずは公有化に向かって努力していきたいと考えます。

（２）決戦地（含石田陣跡）

（修景について）

◆現状での課題・問題点について

- ① 笹尾山及びその麓については今一陣跡らしさを欠いているので、見学者の目を引くような可視的構造物を加えて修景すべきである。
- ② 決戦地についても、一面田園で石碑のみでは雰囲気がなく、石田陣と決戦地を一体化させ、古戦場の面影を醸し出す必要がある。

◆今後の方策（施策）について

- ① 三成陣地を笹尾山麓東北隅から南西隅へ 90 度の扇形状に、さらに前方に拡大し、掘り割り・土塁・竹矢来との組み合わせによる、先陣・中陣・本営を三重に復元構築する。各陣の間は橋を架け周遊路とするとともに、武将の石彫像を点在させる。さらに大のぼりをあしらひ雰囲気を盛り上げる。
- ② 決戦地の南寄りは一開戦地同様起伏状に造成し、野芝張りの平原化とする。
- ③ 修景範囲内は公有化を図る。

（集客施設について）

◆現状での課題・問題点について

広範囲の古戦場を抱えていながら、開戦地同様フィールド内に大小団体客用の休憩施設・食事処・売店がなく、特に雨天時は日程変更を余儀なくされ、来訪者に大変不便をかけている。なお笹尾山頂の休憩用東屋は小グループ用で、大きな団体客は収容しきれない。

◆今後の方策（施策）について

- ①通常でも笹尾山・決戦地を訪れる客は多い。そのため、軽飲食店・土産物店を設置することは史跡の活用上欠くことができない。（指定地外）
- ②現施設を改修し、笹尾山頂に 50 人程度の収容可能なガイダンス施設と併設した、櫓風の展望施設を整備する。
- ③現在の笹尾山頂の東屋休憩施設は手狭なため増築をする。
- ④麓から笹尾山頂への登山道南ルートは急坂で、しかも滑りやすく極めて危険である。特に足に自信がなくて、苦勞して上り下りする来訪者の姿は痛々しい。安全と登りやすくするうえから、登山道中央沿いに手すりを設置する。

（アクセスについて）

◆現状での課題・問題点について

現在の駐車場は修景事業実現後は消滅するため、新設が必要となる。現在のバス路線は狭くて、曲がりくねっており、大型観光バスのドライバー泣かせのうえ、通学路と併用につき問題がある。

◆今後の方策（施策）について

大型バス路線を国道 21 号関ヶ原バイパス際よりおよそ東海自然歩道沿いに決戦地石碑東側まで整備し、駐車場（指定地外）を新設する。

現在既設の国道 365 号側の南からの東西 2 本の道路は新設駐車場にも結ぶ。なお通学時間帯による車輛通行制限標識の設置は必要である。

・

・ A（今後の施策に対する町長の考え方・方針）

「決戦地」

現在、南北小学校の統廃合に向けて努力していますが、これが決まれば決戦地を含めた周辺地域一帯を「福祉と観光の複合ゾーン」として土地利用を図りたいと考えます。

史跡に関して理想的な提言をいただいています。上記と同様に周辺地域の土地利用構想等を策定し、委員会等を設置しその中で決戦地のあり方を検討します。

（3）その他の古戦場（各史跡の問題点・施策等）

（大谷吉継墓）

- ①東海自然歩道側西参道は再三の補修にも拘わらず、大雨のたびに流失している。そのため史跡保存地区に通ずる道路としては来訪者に随分不評を買っている。杉の木の根の露出区間もかなりあり、つまずいて転倒の危険をはらみ、史跡遊歩道とは名ばかりで、抜本的な対策を講ずるべきである。
- ②岩佐五助の墓石が傾き、さらに大谷吉継の墓石の背後が破損しているため、石工による修復が必要である。

- ③東海自然歩道の大谷吉継陣下公衆トイレの各扉は、修繕後もベニヤ材では、極度の湿気によるかびが生え、腐蝕が酷く不潔で非衛生的である。したがって、湿気に強いアルミ建材他による改修を考慮する必要がある。

（家康最初陣跡）

登坂道が国道際にて危険であるため、階段の国道側に手すりを設置し登坂者の安全を図る。

（家康最後陣跡）

陣場野公園内歴史民俗資料館側、関ヶ原合戦 400 年記念野外アトリエ「時の扇」柵張り庭園は、町により芝生張りの見事なものに整備され、民俗資料館南駐車場芝生庭園同様によく管理されている。しかしながら、ただその一角のみで、園内の他の石囲い庭園は夏草が生い茂り、観光客が一番に立ち寄る玄関先の庭としては、お世辞にも公園といえないお粗末さであり、見苦しい限りである。地域の方による年 2～3 回の除草・草刈りがせめてもの救いとなっている。

そこで、整備済みの一角のように、他の数コーナーを早急に何らかの形に整備すべきである。でないと、第5次総合計画にうたわれている、『(1) 公園の整備 ◆「史跡公園など既存公園の管理体制を充実します。」』に恥じることになる。それを空念仏に終わらせないためにも、せめて最優先で玄関先を整備し、その管理体制を確立すべきである。

（小早川陣跡）

最近では山城ブームにのって見学者も多い。したがって、松尾山城の登山口駐車場に山城の鳥瞰図を設置するとともに、地主の理解を得て、主要な郭の見学ができるよう案内標識も整備するとよい。

（その他）

- ①各陣跡あるいは史跡コース等の適所に、案内標識を兼ねた、例えば武将レリーフを展示し、古戦場の雰囲気醸し出すのも趣があってよい(参考例—JR 関ヶ原駅西・古戦橋切り絵)。
- ②JR 関ヶ原駅前に武将像（家康、三成）を展示する。
- ③電車の車窓からも望むことのできるよう、山内陣跡をはじめ駅前や駅裏に大河ドラマにちなんで「山内一豊」の看板や大のぼりを立て来訪を歓迎する。
- ④各陣跡に間伐材使用の休憩用のベンチを配置する。
- ⑤関ヶ原の決戦においては、多くの大名・家臣・雑兵・^{しちようたい}輜重隊（^{こにだ}小荷駄）が尊い命を落としている。また戦場と化した関ヶ原の住民の犠牲も計り知れないものがある。その意味から、合戦の犠牲者の御霊を供養するとともに、平和を願い戦争の悲惨さを後世に伝えていくことを忘れてはならない。そのための手段として、各団体により現在行われている供養祭も含めて、これから先の時代にも即応するような形を確立していくことが望まれる。

.....

A（今後の施策に対する町長の考え方・方針）

「その他の古戦場」

その他の史跡等に関してはご指摘のとおりと思いますが、財政事情が悪いため予算措置ができないというのが実情であります。緊急性を勘案しながらできるものから順次整備、改修等していきます。

2. 中山道沿いの名所開発と史跡整備について

◆現状での課題・問題点について

- ①本町内の中山道は、交通量の増加とともに、時代の流れに押されて町並みから宿場の雰囲気遠のいている。
- ②近年の街道散策ブームにのって、本町もかなり道路や休憩施設が整備されてきたが、一層の各種設備の充実が望まれる。特に望まれるのは集客を重視した自然・文化・歴史の拠点開発とその施設整備である。

◆今後の方策（施策）について

- ①例えば、十九女池などの池を活用し、蒲や睡蓮などを本格的に栽培し、それらの名所として誘客を図る。
- ②最近では古代史に目を向ける歴史ファンも多く訪れる。不破関守跡際の休憩施設整備のように、壬申の乱ゆかりの地である野上行宮跡の整備や特に藤下弘文天皇御陵候補地については、県営広域営農団地農道の供用開始後は、外来者のための駐車場・休憩施設の整備が優先されるべきである。

.....

A（今後の施策に対する町長の考え方・方針）

「中山道沿いの名所開発と史跡整備」

- ・十九女池の活用については十分検討します。
- ・野上の行宮跡の整備、弘文天皇御陵候補地等の整備については、歴史資源の質、量の集積といった点から必要であると思いますが予算の関係も含めて検討します。

3. 古戦場グッズについて

◆現状での課題・問題点について

グッズは古戦場の使命の伝達、イメージアップ、リピーター・新規来訪者の確保、財源確保などという役割がある。

◆今後の方策（施策）について

これまでも合戦をシンボルに各種のオリジナルグッズが開発され、成果を上げてきた。しかし、今後のオリジナル商品の創造や開発の着想は、これまでの経験を活かし、行政・商工を筆頭に各専門分野のスタッフからなる研究開発グループを編成し、取り組むことがより良いグッズを生み出すうえで必要なことではないかと考える。また、一般からのアイデアを募集するののも一つの方法である。

「古戦場グッズ」

4. 看板等情報掲示について

- ①来訪者によってはさまざまであるが、行政の懸命な施策にも拘わらず、案内標識が不足しているなんて苦言を呈する客もいる。
- ②全国からの来訪者の中には当然、本町のホームページの内容やマップにより下調べをしたうえで、おいでになる熱心な方もかなり多い。ホームページがいかに集客上重要なガイド資料であるかがわかる。

- ①案内標識の設置にも限度があるが、全町内をくまなくチェックし、不備があれば老朽も含めて更新・整備を図る必要があることは言うまでもない。
- ②案内標識の設置場所については、来訪者の視線から、位置を決めたり、位置の見直しや変更を行うことが大切である。
- ③小型説明板については、平成8年度よりこれまで徹底して、アルミ製による町統一のもので、多数設置されてきたことは、管理設備の充実に向けての町当局の熱意の賜である。あとわずかに残る必要箇所の整備が望まれる。
- ④本町ホームページの内容は常に改訂を重ね充実を図るとともに、あらゆる情報機関を通じて、関ヶ原情報を全国に発信する。

「看板等情報揭示」

情報発信はご指摘のとおりであり、意見を尊重してホームページの充実を図っていきます。

Ⅱ. これからの関ヶ原町に望むこと

現在史跡（特に戦跡）の特区扱いによる提案は、全国的にまだその例はないようです。しかし、本町としては、差し迫った中で、先頭を切って全国版関ヶ原ならではの特色ある提案を行うだけの資格は有り過ぎる程持ち合わせています。開発の障害となっている史跡即ち戦跡指定地の厳しい現状変更等の制限を特例的に緩和する「特別区域」即ち規制改革「特区」制度の土地利用において、関ヶ原が自称代表モデル地区として、この際提案すべきではないでしょうか。

即ち、提案事項は「古戦場再生・活用特区」を構想名とした、史跡（戦跡）指定区域内における現状変更に関わる許可要件の緩和です（文化財保護法 80 条）。そのためには、史跡活用総合構想を樹立する必要があります。これまで厳しい規制枠のために思うような開発と活用ができなかったわけで、これまで行き詰まりの状態が続いてきたことは周知の通りです。そのため規制緩和は長年の念願だったわけで、町の活性化の起爆剤となることは明白なことであります。

したがって、史跡保存活用の見地から、観光振興ビジョンの策定により、今こそ、構造改革特区の波に乗るべき時です。是非規制緩和の実現に向けて、「国営関ヶ原古戦場公園並びに関ヶ原合戦記念館」（仮称）なる施設整備の要望を含めて、県・国に働きかけることが急務と考えます。なお、国営施設整備事業については、他府県の国営施設の実現事例の経緯を調査し参考としながら、関係当局へ折衝活動を進めていただきたい。この考えは決して甘くはなく、今こそこうしたことに取り組まなければ、永久に古戦場活用の願いは空回りに終始する嫌いがあります。古戦場（戦跡）の場合は他の史跡とは異質であり、規制緩和なくして、史跡活用はなく、ただのかけ声に終わり、いつになっても前進が見られないのではないのでしょうか。この問題はもう一刻も猶予する時ではなく、緊急性を帯びています。行政からは国へ強力に働きかけていただき、活力ある歴史の町「関ヶ原」をつくり上げたいものです。このことは我が町民ばかりでなく、全国の歴史ファン・関ヶ原ファンが皆望むところです。それには、観光振興という地域再生の取り組みの促進にかけて、行政・町民・ボランティア等が一体となってこの問題を考え協力することが必要なことは言うまでもありません。

なお、最後に、全般的なことではありますが、今回の各分科会からの提言内容につきまして、さまざまなものがありますが、取り上げられる重要な提言については、いずれの分科会の提言もその実態の把握を十分行っていただき、その根拠を明確にしたうえで、例えば特別委員会といった組織で十二分に検討を重ねられて、実施に踏み切られますことを切にお願いをいたすものであります。

3) 松尾山城跡略測図



(略測図 中井 作図)

松尾山城跡略測図

岐阜県教育委員会 『岐阜県中世城館跡総合調査報告書 第一集』(2002)より

4) 史跡指定標柱一覧

石碑内容		写真	表示内容			
名称	開戦地		正面	左	裏	右
管理者	関ヶ原町		史蹟 関ヶ原古戦場 開戦地	昭和十三年三月建設	貴族院議員正三位勲一等文學博士 三上参次書	史蹟名勝天然紀念物保存法ニヨリ 昭和六年三月文部大臣指定
時代(年代)	昭和十三年(1938)					
材質	石造					
場所	大字関ヶ原2355-2					
名称	決戦地		正面	左	裏	右
管理者	関ヶ原町		史蹟 関ヶ原古戦場 決戦地	昭和十三年三月建設	陸軍大将 宇垣一成書	史蹟名勝天然紀念物保存法ニヨリ 昭和六年三月文部大臣指定
時代(年代)	昭和十三年(1938)					
材質	石造					
場所	大字関ヶ原1202					
名称	徳川家康最初陣地		正面	左	裏	右
管理者	関ヶ原町		史蹟 関ヶ原古戦場 徳川家康最初陣地	昭和十二年三月建設		史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依り 昭和六年三月文部大臣指定
時代(年代)	昭和十二年(1937)					
材質	石造					
場所	大字野上1424-1					

名称	徳川家康最後陣地		正面	左	裏	右
管理者	関ヶ原町		史蹟 徳川家康最後陣地	昭和十二年三月建設		史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依り 昭和六年三月文部大臣指定
時代(年代)	昭和十二年(1937)					
材質	石造					
場所	大字関ヶ原959-2					
名称	石田三成陣地		正面	左	裏	右
管理者	関ヶ原町		史蹟 関ヶ原古戦場 石田三成陣地	昭和十二年三月建設		史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依り 昭和六年三月文部大臣指定
時代(年代)	昭和十二年(1937)					
材質	石造					
場所	大字関ヶ原4006					
名称	岡山烽火場		正面	左	裏	右
管理者	関ヶ原町		史蹟 関ヶ原古戦場 岡山烽火場	昭和十二年三月建設	京都退土山田得多書時八十六歳 (※) ※本来は旧字体	史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依り 昭和六年三月文部大臣指定
時代(年代)	昭和十二年(1937)					
材質	石造					
場所	大字関ヶ原732-27					

名称	大谷吉隆墓		正面	左	裏	右
管理者	関ヶ原町		史蹟 関ヶ原古戦場 大谷吉隆墓	昭和十四年三月建設		史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依り 昭和六年三月文部大臣指定
時代(年代)	昭和十四年(1939)					
材質	石造					
場所	大字関ヶ原678-2					
名称	東首塚		正面	左	裏	右
管理者	関ヶ原町		史蹟 関ヶ原古戦場 東首塚	昭和十四年三月建設		史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依り 昭和六年三月文部大臣指定
時代(年代)	昭和十四年(1939)					
材質	石造					
場所	大字関ヶ原908-3					
名称	西首塚		正面	左	裏	右
管理者	関ヶ原町		史蹟 関ヶ原古戦場 西首塚	昭和十三年三月建設	陸軍大将 宇垣一成書	史蹟名勝天然紀念物保存法ニヨリ 昭和六年三月文部大臣指定
時代(年代)	昭和十三年(1938)					
材質	石造					
場所	大字関ヶ原2236					

5) 関ヶ原合戦関連テレビドラマ一覧

①関ヶ原合戦が登場する NHK 大河ドラマ

タイトル	放送年	配役		原作
		徳川家康	石田三成	
黄金の日	1978	児玉 清	近藤正臣	城山三郎
おんな太閤記	1981	フランキー 堺	宅麻 伸	橋田壽賀子
徳川家康	1983	滝田 栄	鹿賀丈史	山岡荘八
独眼竜政宗	1987	津川雅彦	奥田瑛二	山岡荘八
葵 徳川三代	2000	津川雅彦	江守 徹	ジェームズ 三木
利家とまつ ～加賀百万石物語～	2002	高嶋政宏	原田龍二	竹山 洋
武蔵 MUSASHI	2003	北村和夫	ー	吉川英治
功名が辻	2006	西田敏行	中村橋之助	司馬遼太郎
天地人	2009	松方弘樹	小栗 旬	火坂雅志

②その他

タイトル	放送年	配役		原作
		徳川家康	石田三成	
関ヶ原 (TBS開局30周年ドラマ)	1981	森繁久彌	加藤 剛	司馬遼太郎

6) 関ヶ原合戦関連小説・随筆等一覧

著者	書名	出版社	出版年
安部龍太郎	関ヶ原連判状/上巻・下巻	新潮社	1999
安部龍太郎	風の如く 水の如く	集英社	1999
会田雄次	カラーで読む関ヶ原合戦	PHP研究所	1983
麻倉一矢	武蔵隠密剣 関ヶ原異聞	ベストセラーズ	1995
伊佐美	真・関ヶ原合戦・波瀾の章	ロングセラーズ	1997
伊藤浩士	神変関ヶ原	学習研究社	2008
志茂田景樹	大逆説!関ヶ原合戦	光文社	1990
池波正太郎	信長と秀吉 関ヶ原の決戦	学習研究社	1967
池波正太郎	『関ヶ原の間諜-蜂谷与助』霧に消えた影 池波正太郎傑作歴史短編集	PHP研究所	1992
池波正太郎	真田太平記 第7巻(関ヶ原)	新潮社	2005
池波正太郎, 永井路子 他	関ヶ原・運命を分けた決断 傑作時代小説	PHP研究所	2007
宇治谷順	続戦国自衛隊2 関ヶ原死闘編	世界文化社	2003
江竜喜信	一期の決断大谷刑部	叢文社	2002
江竜喜信	小早川金吾秀秋	叢文社	2004
小田部昭典	関ヶ原への道 小田部軍物語	青潮社	1986
青木基行	覇関ヶ原大戦記1〜3	学習研究社	2004〜2007
大神信一郎	関ヶ原・智将の決断 戦国大名の生き残り戦術	勁文社	1993
尾関トヨ編	絵本関ヶ原軍記	深川屋	1887
尾崎士郎	石田三成	中央公論社	1938
尾崎士郎	関ヶ原 随筆集	高山書院	1941
火坂雅志	天地人/上・中・下巻	日本放送出版協会	2006
加野厚志	島津義弘 (関ヶ原・敵中突破の豪勇)	PHP研究所	1996
加来耕三	直江兼続と関ヶ原の戦いの謎(徹底検証)	講談社	2008
加来耕三	家康の天下取り 関ヶ原・勝敗の研究	日本経済新聞社	1993
加来耕三	関ヶ原家康と勝ち組の武将たち	立風書房	2000
加来耕三	家康が最も恐れた男直江兼続と関ヶ原の義将たち	学習研究社	2009
火坂雅志	関ヶ原幻魔帖	勁文社	2000
火坂雅志	関ヶ原死霊大戦	徳間書店	1991
海音寺潮五郎, 曲木磯六	関ヶ原軍記	鱒書房	1956
海内院元	長宗我部の関ヶ原	共生出版	1994
岳広一郎	群雲、関ヶ原へ/上巻・下巻	光文社	2007
岳真也	関ヶ原合戦「武将」たちの言い分 (天下分け目の行動学)	PHP研究所	2007
桐野作人	真説関ヶ原合戦	学習研究社	2000
霧島那智	関ヶ原異伝 1〜3	双葉社	1997
工藤章興	反関ヶ原1〜5	学習研究社	1994
国本昭二	山口記を歩く 関ヶ原の前哨戦	北国出版社	1984
グループ歴史舎編	早わかり歴史クイズ関ヶ原	角川書店	1999
近衛龍春	鎧の才蔵(関ヶ原の鬼武者)	双葉社	2006
近衛龍春	大いなる謎 関ヶ原合戦-家康暗殺計画から小早川裏切りの真相まで	PHP研究所	2005
駒田幸光	関ヶ原ふたたび (天下を望まず、天下を制す)	文芸社	2005
小泉俊一郎	覆関ヶ原1〜4	学習研究社	2004〜2008

著者	書名	出版社	出版年
佐々克明	関ヶ原生き残りの戦略戦術 戦国参謀part4	産業能率大学出版部	1983
早乙女貢	忍法関ヶ原	青樹社	1969
司馬遼太郎	関ヶ原	新潮社	1966
祖父江一郎	関ヶ原決戦（明日を築く戦い）	角川春樹事務所	2000
外川淳	完全制覇関ヶ原大合戦（この一冊で歴史に強くなる）	立風書房	2000
祖父江一郎	関ヶ原前譜（ある逆臣の生涯）	角川春樹事務所	2000
祖父江一郎	まつと家康 明日を築く闘い	角川春樹事務所	2002
武光誠	関ヶ原（誰が大合戦を仕掛けたか）	PHP研究所	2007
谷恒生	『岩見重太郎』「慶長水滸伝. 1」	双葉社	1993
竹中亮	『新・関ヶ原の激戦』織田大戦記. 6	学習研究社	2004
田中巖	歪められた歴史 石田三成と関ヶ原戦	明玄書房	1967
田辺節雄	続戦国自衛隊 関ヶ原外伝	世界文化社	2006
武光誠	関ヶ原・敗者たちの勝算と誤算	PHP研究所	2008
茶屋二郎	関ヶ原戦勢逆転の真実	日新報道	2000
著者不詳	関ヶ原軍記	礪川出版社	1893
津野田幸作	戦国大乱1 新・関ヶ原大決戦	学習研究社	1992
柘植久慶	宮本武蔵の戦い. 2(関ヶ原の巻)	PHP研究所	1998
柘植久慶	逆撃 関ヶ原合戦	中央公論社	1993
天下御免丸制作	関ヶ原	天下御免丸	1996
徳永真一郎	石田三成（長編歴史小説）	青樹社	1990
中里融司	異戦関ヶ原1～7	学習研究社	2004
中里融司	戦国覇王伝2 北の関ヶ原	学習研究社	1999
中里融司	戦国武陣侠 5 恩讐の関ヶ原	学習研究社	2003
中西信男	関ヶ原合戦の人間関係学 歴史心理学から見た家康の性格	新人物往来社	1983
中川鉄二郎編	絵本関ヶ原軍記	中川鉄二郎	1887
中津征広	関ヶ原異聞「夢」	碧天舎	2005
中津文彦	闇の関ヶ原	PHP研究所	2000
中津文彦	闇の関ヶ原（長編時代ミステリー）	実業之日本社	2000
中島徳行	関ヶ原合戦	黎明社	1956
直木三十五	関ヶ原 『直木三十五代表作選集』 第2巻	同光社磯部書房	1952
日本博学倶楽部	戦国武将・あの人の「その後」「関ヶ原」「本能寺」…事件が変えた男たちの運命	PHP研究所	2002
西田実	チェスト関ヶ原 島津義弘と薩摩精神	春苑堂書店	1972
西野辰吉	関ヶ原合戦記	勉誠社	1994
原康史	『関ヶ原合戦光と影』激録日本大戦争. 第16巻	東京スポーツ新聞社	1984
林律雄	戦国風雲伝 4 決戦!関ヶ原	学習研究社	2005
馬場祥弘	決戦! 関ヶ原（名軍師・島左近の知略）	PHP研究所	1997
久住隈莉	関ヶ原燃ゆ! (死闘!東西決戦)	学習研究社	2003
平井太郎, 飯田仁	関ヶ原 兵法指南書	アスキー	1992
藤井尚夫	フィールドワーク関ヶ原の合戦	朝日新聞社	2000
松本北深志町	関ヶ原軍記備考	吟天社	1886
三池純正	敗者から見た関ヶ原	洋泉社	2007
三島霜川	日本歴史実伝物語叢書 7 関ヶ原大合戦	金の星社	1927
村田一司	仮説・関ヶ原合戦	文芸社	2000
茅原照雄	武将たちの関ヶ原	東方出版	1988
山田風太郎	忍法関ヶ原	文藝春秋	1970
山岡荘八	徳川家康	講談社	1962
山内正徳	高城戦記 九州の関ヶ原はどのように戦われたか	鉾脈社	2008
吉本健二	眩関ヶ原1～5	学習研究社	2003～2004
鷲尾雨工	関ヶ原	春秋社	1938

7) 関ヶ原合戦その他関連書籍（ムック等）一覧

著者	書名	出版社	出版年
朝日新聞社編	週刊朝日百科 27 関ヶ原 合戦の変遷	朝日新聞社	2002
朝日新聞出版 編, 童門冬二監修	週刊名将の決断. no. 2 勝者「中国大返し」豊臣秀吉 敗者「奥州関ヶ原の戦い」直江兼統	朝日新聞出版	2009
朝日新聞出版 編, 童門冬二監修	週刊名将の決断. no. 7 敗者「関ヶ原の戦い」石田三成 勝者「一ノ谷の戦い」源義経	朝日新聞出版	2009
朝日新聞出版 編, 童門冬二監修	週刊名将の決断. no. 17勝者「薩長同盟」坂本龍馬 敗者「関ヶ原の戦い」大谷吉継	朝日新聞出版	2009
アド・テクノス編	異聞関ヶ原家康最大の敗北	朝日出版社	1983
旺文社編	関ヶ原の戦い 新分析現代に生きる戦略・戦術	旺文社	1984
笠原一男編	関ヶ原の戦い前夜 『物語日本の歴史』 第19巻	木耳社	1992
笠原一男編	関ヶ原の合戦 『物語日本の歴史』 第20巻	木耳社	1992
学習研究社編, 樋口清之監修	決戦!関ヶ原 『学研まんが歴史シリーズ』	学習研究社	1973
学習研究社編	関ヶ原の戦い 「全国版」史上最大の激突<ムック>	学習研究社	1987
学習研究社編	新・歴史群像シリーズ①関ヶ原の戦い 日本史上最大の大会戦<ムック>	学習研究社	2006
角川書店編	日本史探訪 12 関ヶ原と大坂の陣	角川書店	1983
桑田忠親編	日本の合戦. 第7 戦国の総決算(中村吉治) 関ヶ原の戦(桑田忠親) 大阪冬の陣・夏の陣(岡本良一) 島原の乱(海老沢有道)	人物往来社	1965
講談社編	週刊ビジュアル日本の合戦. no. 3(徳川家康・石田三成と関ヶ原の戦い 2)	講談社	2005
主婦と生活社編, 小和田哲夫監修	関ヶ原と戦国武将の攻防<ムック>	主婦と生活社	2000
小学館 編	関ヶ原のたたかい 『まんが日本史 : アニメ版』 19	小学館	1984
新人物往来社 編	野望! 武将たちの関ヶ原 参戦武将63人の戦い『別冊歴史読本』 第33巻23号	新人物往来社	2000
新人物往来社 編	戦況図録 関ヶ原大決戦 『別冊歴史読本』 第25巻16号	新人物往来社	2000
新人物往来社 編	関ヶ原から大坂の陣へ 『月刊歴史読本』 420号 臨時増刊	新人物往来社	1985
白水正	図説関ヶ原の合戦	岐阜新聞社	2000
小学館編	週刊新説戦乱の日本史. 3(関ヶ原) 小学館ウィークリーブック	小学館	2008
小学館編	週刊新説戦乱の日本史. 23(関ヶ原に散る) 小学館ウィークリーブック	小学館	2008
デアゴスティーニ・ジャパン編	週刊ビジュアル日本の歴史. no. 8 激闘!関ヶ原	デアゴスティーニ・ジャパン	2008
双葉社編	決戦関ヶ原 日本が2つに割れた史上空前の大合戦の全貌<ムック>	双葉社	2008

8) 関ヶ原合戦関連新聞記事一覧

日付	新聞名	見出し
昭和11年頃 ※	不明	天下分目の古戦場 関ヶ原に標識建設
昭和11年頃 ※	不明	関ヶ原指定地 保存施設に国庫から補助
昭和48年(1973)4月25日	岐阜日日新聞	史跡保護か開発か 論議呼ぶ関ヶ原町
昭和49年(1974)1月18日	岐阜日日新聞	バイパスより史跡
昭和49年(1974)4月9日	岐阜日日新聞	とんと進まぬ建設計画 国道21号線バイパス
昭和49年(1974)4月21日	岐阜日日新聞	文化庁が意見調整へ
昭和49年(1974)7月11日	岐阜日日新聞	史跡保存で難航
昭和49年(1974)8月7日	岐阜日日新聞	一体いつまで…この混雑 バイパス早く建設して！
昭和49年(1974)10月13日	岐阜日日新聞	文化財の指定地域縮小して
昭和49年(1974)10月15日	中日新聞	地主らが縮小運動 活用できぬ私有地
昭和49年(1974)11月8日	中日新聞	どうなる史跡縮小問題
昭和49年(1974)11月9日	岐阜日日新聞	文化財へ基本姿勢を 関ヶ原町地主と協議
昭和49年(1974)12月5日	中日新聞	開戦地・決戦地以外は解除を 文化庁へ計画書提出
昭和49年(1974)12月11日 ※	朝日新聞	文化財保護か土地所有権か
昭和50年(1975)1月25日	岐阜日日新聞	文化庁が近く調査 指定地縮小要望受け
昭和50年(1975)2月22日	岐阜日日新聞	文化庁縮小へ見直し 町政の難題を解消
昭和50年(1975)2月23日	中日新聞	保存か開発か
昭和50年(1975)4月17日	岐阜日日新聞	近く見直し本格化
昭和50年(1975)5月21日	岐阜日日新聞	学校、道路が出来ぬ
昭和50年(1975)6月3日	中日新聞	調査専門委員を選考
昭和50年(1975)6月6日	岐阜日日新聞	難航するバイパス建設
昭和50年(1975)7月1日	岐阜日日新聞	全員が縮小を要望 専門委員会で
昭和50年(1975)11月19日	中日新聞	地主の要望も考慮へ
昭和51年(1976)2月19日 ※	中日新聞	史跡指定地は公有化を 関ヶ原専門委員会
昭和51年(1976)3月6日	中部経済新聞	買収より制限緩和を地主、行政に強い不満
平成3年(1991)11月20日	朝日新聞	史跡指定に住民反旗
平成3年(1991)11月21日	朝日新聞	縮小を求めて陳情
平成3年(1991)11月21日	中日新聞	史跡広すぎ縮小合戦
平成3年(1991)12月22日	岐阜新聞	関ヶ原の史跡問題 小委で具体策検討へ
平成3年(1991)12月22日	朝日新聞	小さくなるか「古戦場」
平成4年(1992)1月12日	岐阜新聞	町発展の妨げ？関ヶ原古戦場
平成4年(1992)3月4日	中日新聞	国史跡指定区域縮小要望で協議会設立へ
平成19年(2007)1月21日	中日新聞	天下分け目の「開戦地」公有なるか
平成19年(2007)10月28日 ※	中日新聞	古戦場 保存、活用に本腰

※記事を後掲した(附-20, 21)

關ヶ原指定地

保存
施設に
國庫から補助

九ヶ所に標識を建設

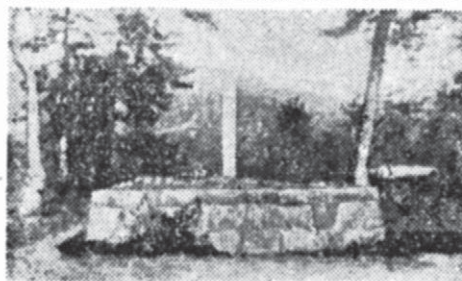
將來はドライヴウエーも設ける

夕刊所報、武士道華やかなりしころ天下分け目の大合戦場として三百州有年前の往時をそのまゝ止める關ヶ原古戦場を昭和六年史蹟に指定され近年古戦場を市ふ士は後を斷たない状態にあるが巨木繁茂して訪ふに途なく勝軍も利かず折角の國家的至寶も日にすたれその度を増し遺憾とされてゐたが根強い地元民の奮起によつていよいよこれが顯彰と幾多の保存施設により國民記憶遺産の大教化としてデビュすることになった

地元關ヶ原町では本年十月指定地保存施設として豫算九千八百九十四円余（その中國庫補助三千五百円縣補助三千円）を可決直に補助申請の手續きをとつたが今回時宜に適した施設として三千円の國庫補助を交付されることに決定地元は凱歌が揚つたが右施設概要はまづ五千百廿四円を投じて

開戦地天満山東最後激戦地、笹尾山東家康最初の陣地、桃配山東軍狼火堀、岡山黒田長政陣地、

家康最後の陣地、檢儲場、石田三成陣地、笹尾山大谷吉隆の墓（相川山麓）その他西首藤東首塚の九ヶ所
に長さ一丈五尺幅および厚さ二尺の標識を設けるほか整地の上芝植をして圍ひ柵をめぐらし三千百四十円をもつて



上漸次計畫を進めて將來はドライヴウエーなどを設けて遊覽地化

史跡地内の 民有地五反六畝歩余を買収して完全に保存の

参考記事 1 昭和 11 年頃の記事①

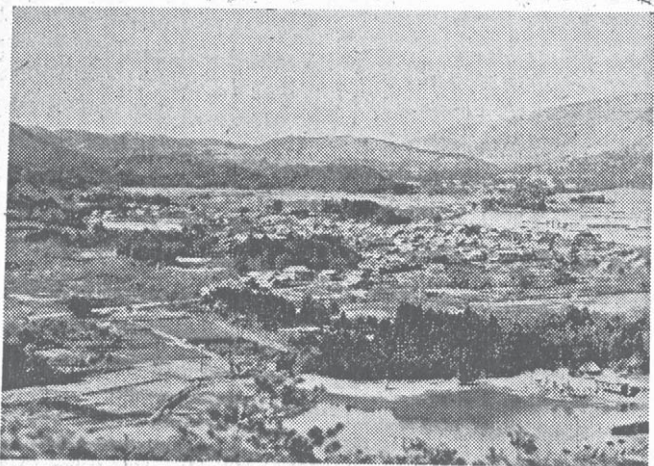
天下分目の古戦場

關ヶ原に標識建設

五十ヶ所に道しるべを造り

遊覽客の案内役に

關ヶ原古戦場指定の契機となつたのはゆる天下分目の大合戦地、關ヶ原古戦場、保存費では今回國庫の補助金を得て地元支出三千円を加へ總計費九千円をもつて戦跡永久保存設備として開戦地、激戦地、家康最初の陣地、家康最後の陣地、石田三成の陣地、檢儲場、大谷吉隆の墓、東西兩首塚の九ヶ所に標識大石柱を建立し年々増加する戦跡遊覽客の案内上の設備として戦跡五十ヶ所に道しるべを立て、戦跡一帯の地丸山山上に十五尺に八尺の大案内図を建て、無言の案内役をつとめさせるほか各戦跡に高さ六間の櫓式標塔を建立し案内圖と照らし合して兩軍の陣地を一目瞭然たしめるが、右二方面の設計もすでに出来上つたのでいよいよ九月十五日の同合戦記念日をとり着工の意で、このほか遊覽客および學生のため無休開放所その他が計畫されてゐる（眞は關ヶ原古戦場の通説）



参考記事 2 昭和 11 年頃の記事②

9) 現状変更申請一覧 平成8年度～平成20年度

申請者(担当課)	場所	内容	現状変更申請日	現状変更許可日	工事着手届	工事完了届
関ヶ原町(400年祭推進室)	開戦地	駐車場整備	H11.12.10	H12.1.12	H12.2.15	H12.6.25
関ヶ原町(400年祭推進室)		公園設置	H12.3.16	H12.3.22	H12.7.1	H12.9.30
関ヶ原町(400年祭推進室)		馬防柵	H12.11.28	H12.12.8	H12.12.12	H12.12.15
JR東海		工作物(鉄塔残存部)撤去	H15.9.2	H15.9.11		H15.12.10
関ヶ原町(地域振興課)		囲い柵の設置	H16.1.7	H16.1.21	H16.2.4	H16.2.23
関ヶ原町(地域振興課)		島津陣跡石碑移設工事	H17.10.7	H17.10.17	H18.1.4	H18.3.10
関ヶ原町(産業建設課)		農道改良	H17.12.21	H18.1.4	H18.1.26	H18.1.26
西濃農林事務所		小池農道の新設	H18.1.23	H18.4.21	H19.8.1	H20.2.25
関ヶ原町教育委員会		石碑保護	H18.6.15	H18.8.4	H18.8.18	H18.9.13
関ヶ原町(産業建設課)		道路拡幅	H18.8.7	H18.9.28	H18.10.23	H18.12.18
関ヶ原町教育委員会		注意看板の撤去	H19.3.16	H19.3.19		H19.3.19
中部電力 大垣営業所		電柱の立替	H19.7.4	H19.8.3	H19.9.26	H19.11.15
中部電力 大垣営業所		電柱の立替	H19.7.13	H19.8.29		H19.11.15
関ヶ原町(地域振興課)		のぼり旗の設置	H20.11.20	H21.1.8		H20.3.31
関ヶ原町(地域振興課)	決戦地	馬防柵設置	H8.12.17	H9.3.10	H9.3.16	H9.3.16
関ヶ原町(水道環境課)		下水道敷設	H18.4.10	H18.6.16	H18.7.4	H18.11.5
個人		畑作転換	H19.10.9	H19.10.30		H19.11.29
関ヶ原町(地域振興課)		のぼり旗の設置	H20.10.27	H20.10.30		H20.11.20
不破の関ロータリー		解説板の設置	H21.2.19	H21.3.19		H20.4.24
関ヶ原町教育委員会	徳川家康最初陣地	枯木伐採	H9.11.6	H9.11.28	H9.12.8	H9.12.12
関ヶ原町(400年祭推進室)		立木伐採	H12.3.16	H12.3.22	H12.8.3	H12.7.29
関ヶ原町(地域振興課)		転落防止柵設置	H15.7.15	H15.7.29	H15.8.12	H15.8.29
関ヶ原町(地域振興課)		のぼり旗の設置	H20.6.18	H19.7.18		H20.4.27
関ヶ原町(400年祭推進室)	徳川家康最後陣地	トイレ・看板撤去	H11.12.10	H11.12.17	H12.1.13	H12.2.3
関ヶ原町(400年祭推進室)		オブジェ設置	H12.9.25	H12.9.26	H12.9.26	H12.9.30
関ヶ原町教育委員会		枯木伐採	H13.2.9	H13.2.26	H13.2.26	H13.2.28
関ヶ原町教育委員会		電柱移設	H14.7.22	H14.9.20	H14.10.18	H14.10.23
関ヶ原町教育委員会		枯れ松の伐採	H16.9.2	H16.9.9	H16.9.9	H16.9.28
関ヶ原町教育委員会		枯木伐採	H17.1.8	H17.1.18	H17.1.18	H17.1.28
関ヶ原町教育委員会		枯木伐採	H17.11.21	H17.11.30	H18.2.1	H18.2.3
関ヶ原町教育委員会		石碑刻字クリーニング	H18.6.9	H18.7.6	H18.7.6	H18.8.10
中部電力 大垣営業所		電柱の立替	H19.12.18	H20.1.18		H20.3.31
関ヶ原町教育委員会		立木伐採	H10.6.1	H10.6.5	H10.6.16	H10.6.16
関ヶ原町(400年祭推進室)		展望施設等整備	H11.9.7	H11.9.13	H11.9.22	H11.12.22
関ヶ原町(400年祭推進室)		立木伐採	H11.9.10	H11.9.13	H11.9.22	H11.12.22
関ヶ原町(400年祭推進室)		臨時物産所設置	H12.3.7	H12.3.29		H12.12.31
関ヶ原町(400年祭推進室)		オブジェ設置	H12.9.25	H12.9.26	H12.9.26	H12.9.30
関ヶ原町教育委員会		枯木伐採	H16.3.1	H16.3.5	H16.3.17	H16.3.17
関ヶ原町(地域振興課)	石田三成陣地	馬防柵の立て替え	H20.6.18	H20.6.20		H20.6.24
関ヶ原町(地域振興課)		馬防柵の立て替え	H20.10.1	H20.10.6		H20.10.16
関ヶ原町(地域振興課)		のぼり旗の設置	H20.10.6	H20.10.30		H20.11.22
関ヶ原町(地域振興課)		のぼり旗の設置	H20.10.27	H20.10.30		H20.11.20
関ヶ原町(400年祭推進室)		山頂部の整備	H11.9.7	H11.9.13	H11.9.22	H11.12.3
関ヶ原町教育委員会	岡山烽火場	枯木伐採	H14.7.22	H14.8.6	H14.9.4	H14.9.3
関ヶ原町教育委員会		枯木伐採	H17.10.26	H17.11.4	H18.2.2	H18.2.2
関ヶ原町教育委員会		枯れ松の伐採	H19.1.18	H19.1.26		H19.1.29
関ヶ原町(地域振興課)		のぼり旗の設置	H19.12.13	H20.1.31		H20.3.31
関ヶ原町教育委員会		枯木伐採	H16.2.24	H16.3.5	H16.3.17	H16.3.17
関ヶ原町教育委員会	大谷吉隆墓	土壇土留め修復	H16.9.15	H16.9.23	H16.9.24	H16.10.29
関ヶ原町教育委員会		枯木伐採	H19.11.19	H19.11.30		H20.1.21
関ヶ原町(400年祭推進室)		歩道増設等整備	H11.9.7	H11.9.13	H11.9.22	H11.12.22
関ヶ原町(400年祭推進室)	東首塚	枯木伐採	H11.9.10	H11.9.13	H11.9.22	H11.12.22
関ヶ原町教育委員会		いちよう剪定	H17.10.12	H17.10.17	H18.3.22	H18.3.31
関ヶ原町教育委員会		石碑刻字クリーニング	H18.6.9	H18.7.6	H18.7.6	H18.8.10
関ヶ原町教育委員会		枯木伐採	H19.11.19	H19.11.30		H19.12.28

岐阜版

岐阜支局
岐阜市司町31 郵500
電話代表(63)4125
県内の通信網
大 垣(81)3360
関 (2)2373
郡上八幡(5)2046
美濃加茂(5)2421
多 治 見(22)0745
中 津 川(6)1552
高 山(32)0193
神 岡(2)0565

廣告專用岐阜(64)5186

ハイセンス・ハイクオリティひとすじに87年

 洋品 雑貨
蔦屋
 岐阜・今小町(岐阜日日新聞社) 電話4120012

現地米

いる町有地部分だけを慰
町政委はびびり、「『町
告示の官報もないので、
ら穿しを取ってやとわ
ろなわけだ』。これを處
ろに、これまでにやはり
っている家康最初の陣跡
配山が国道引号や新幹線
切られたり、史跡の中
にても全然問題になっ

きない史跡だということは全く知りませんでした。昭和六年といえは上意下達時代、民意などおろさないに決まっていたことが国民主義の現在まで生きている、私有権を凍結しているなんて……。国も指定のしっぱなしで、われわれは固定資産税も納めてきている。どうして史跡の面積を決めたのかも

ていた大部分の地主とパイパス建設には賛成していた地主が手を結び「関ヶ原町史跡指定の縮小を願う地主の会」（会員八十七人）を結成、十月四日に文化庁に史跡縮小の嘆願書を出した。

文化庁 一 公有化や規制緩和も

雪におおわれた関ヶ原合戦の開戦地跡

[illegible][illegible]

古戦場保存活用一本腰

岐阜県版

岐阜支社
平50—8875
岐阜市柳町一丁目128番
Fax (265) 0119
Fax (262) 8706
(販売) (265) 0279
(広告) (266) 4261
(事業) (265) 0226
多治見支局
0572 (22) 3112
Fax (23) 5323
大垣支局
0584 (78) 2030
Fax (74) 6468
高山支局
0577 (32) 0350
Fax (34) 5219
関支局
0575 (22) 3933
Fax (24) 3934
中日新聞への二意見
読者センターへ
052 (221) 0801
Fax (221) 0810

の策定を免注した。年度内に基本構想を打ち出し、〇九年度までに保存管理計画と整備基本計画を策定する予定。古戦場だけでなく、日本三関の

古戦場保存活用一本腰

関ヶ原町

目の含戦」の舞台となった古
場の保存・活用事業に本格的
乗り出す。三十一日に有識者
による委員会が成立し、年度
に基本構想をまとめる方針。
富な史跡を整備し、町全域
一古戦場のテーマパーク化
することで、観光客誘致につな
がりたい。(河野正巳)

[illegible]

テーマバ

[illegible]

一面鹽田となつて鹽を産出する湖へ続く

[illegible][illegible]

史跡指定地は公有化を

関ヶ原町の専門委員 保存のために必要

不破郡阿原町の隈方古戦場史跡指定地（約二十五畝）の在り方について調査していた同町史跡等保存連署専門委員会は、十八日午後一時から同町中央公民館で最終委員会を開いた結果、指定地で全面公有化を。全面公有化が難しい場合は、郡を縮小し他は公有化して欲しいとの結論となり、四月までに報告書を文化庁に提出するようになった。

同調査は、一昨年二月に史跡指定地地主らが「広大な土地が国の指定地にされているため、自分の地も自由に使えない」と、町や国広範囲な土地を指定したままに置く、必要な所を再検討して保存、残りの農地は増地から除外し欲しいと訴へ、同町では史跡等保存管理計画策定事業で調査。昨年六月には郷史、都市工学、都市計画などの専門家たち六人を委嘱、専門委員会を指定地を調査を進めた。

四回にわたる委員会が論議がなされた。指定地の縮小や条件緩和をレールの上に乗せるとは難しい。それかという中、その意に沿うものではないが、史跡保存という基本姿勢に立って、史跡指定地は公有化を図らなければ保存はあつた得ないとしてる。

参考記事 4 中日新聞

(昭和51年2月19日より抜粋)

参考記事 5 中日新聞

(平成19年10月28日より抜粋)

おわりに

関ヶ原古戦場の保存活用については、昭和 40 年代より議論がなされ、昭和 51 年に第 1 次保存管理計画が策定されましたが、関ヶ原町にとっては長年の課題となっております。

今回の本保存管理計画の策定においても、どのように保存管理し、活用するのが議論の中心となりましたが、様々な意見が飛び交い、保存管理活用の難しさを改めて痛感したところでした。

しかしながら、関ヶ原古戦場なくしては関ヶ原町のまちづくりを語ることはできません。近年増加している観光客の姿を見ていると、史跡が単に町民の財産だけではなく、我が国を代表する歴史文化資産であることを強く感じており、これを後世に継承していくことは私たちの責務であると考えています。

今後、本保存管理計画が、まちづくりの柱となり、より一層の保存管理活用に寄与することを願っています。

最後になりましたが、委員長としてご尽力をいただきました、三重大学名誉教授八賀晋先生をはじめ委員の先生方、終始ご指導をいただきました文化庁、奈良文化財研究所、岐阜県教育委員会その他の関係各位のご尽力に厚くお礼を申し上げます。

平成 22 年 3 月

関ヶ原町教育委員会

教育長 山崎悦生

関ヶ原町文化財報告書 第1集
史跡関ヶ原古戦場保存管理計画策定報告書

発 行 日 平成22年(2010)3月

編集・発行 関ヶ原町・関ヶ原町教育委員会

〒503-1592

岐阜県不破郡関ヶ原町大字関ヶ原 894-58

TEL 0584-43-1289

FAX 0584-43-5560